

街中でカノープスを見る

街中でカノープスは見えない？

おうし座、オリオン座、ふたご座など、冬の星たちが見ごろの季節となりました。明るい星がたくさんある冬の星の中で、ぜひ見てみたい星の一つに、りゅうこつ座の一等星カノープスがあります。

大阪付近から見た場合、カノープスは南の地平線ぎりぎりの高さに見え、南中高度は約3度、地平線から顔を出している時間も3時間半程度しかありません。しかも、もともとは全天で二番に明るいマイナス0.7等の光も、低空にあるため大気の減光を受けて暗くなり、色も少し赤みを帯びています。そのため、観望が難しい星の一つとして有名です。

星の本にある解説などを見ても、高い建物が林立し、街灯りがあふれる都会での観望は難しいと書いてありますから、大阪市内からは見えないだろうと諦めている方もいらっしゃるかもしれません。しかし、場所と天気の条件がクリアできれば、大阪市内でも結構見ることができます。

カノープスが見える条件としては、①南の地平線近くまで見渡せる場所、②南の低空までよく晴れた夜、③街灯りが比較的少ないこと、が挙げられます。大阪市内で①の条件をクリアする場所としては、高いビルの屋上展望台や、大坂城天守閣付近などの小高い場所がありますが、実際にこれらの場所でカノープスを見たという報告をよく聞きます。また、見た人からは、最初に双眼鏡を使って探せば、案外簡単に見つかった、という声が多くあります。筆者も同様に、大阪市内からカノープスを時折見ることに成功しています。



写真:大阪市内の鶴見緑地公園から見たカノープス。2017年3月、筆者撮影。

街中でカノープスを見たい

市内から見えるのであれば、次にはビルなどの高い場所にわざわざ出かけるのではなく、生活圏・通勤圏に近い場所で、日常生活の中でカノープスを見たい、と筆者が思ったのは2018年2月の終わり頃、カノープスの観望シーズンも終盤に入った頃でした。

理想的なのは、通勤経路かその付近の標高が低い場所で、ふと立ち止まり、カノープスを見つけることです。注目したのは、南北に通っている直線道路の歩道橋の上や、川にかかる橋の上でした。これなら通勤途中や近所への外出中でも見つけられそうです。そこで、通勤経路とその付近にあるいくつかの候補場

所を選び、夕方の帰り道に何度かチャレンジしてみましたが、残念ながらカノープスと出会えないまま3月中旬となり、観望シーズンは終了してしまいました。

そして2019年に入り、カノープスの南中時刻も少しずつ早くなってきました。いよいよ夕方から宵の時間帯に見るいい時期です。筆者は再チャレンジを考えています。

カノープスは、双眼鏡があれば確認しやすくなりますし、5～10分間ほど眺

日付	南中時刻
1月10日	23時05分頃
1月20日	22時25分頃
2月1日	21時35分頃
2月10日	21時00分頃
2月20日	20時20分頃
3月1日	19時45分頃
3月10日	19時10分頃

表:大阪付近でのカノープス南中時刻(2019年の値)

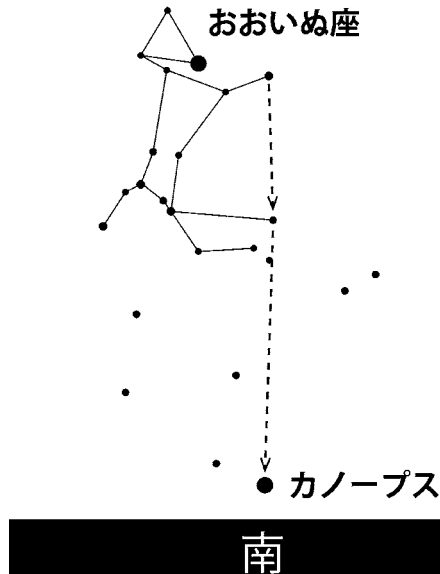


図:カノープスのさがし方。南中時に、おおいぬ座からたどっていきます。

めていると、少しずつ西へ移動していく様子も認められます。また、観望に向いているのは南中時刻前後の30分間程度と短いのですが、時間が合えばピンポイントで狙えるメリットもあります。左に、1～3月の南中時刻をまとめておきましたので、ぜひみなさんも、都会の中でのカノープス探しにチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

嘉数 次人(科学館学芸員)